

TA研修の開催報告	1
LUNA活用事例紹介	2
ワークショップ実施報告・発行挨拶	7
一年生調査・上級生調査(IR学生調査)ご協力のおかげ	8
学修行動と授業に関する調査実施報告とお願い	8

ティーチングアシスタントのための「学びの支援方法」習得研修

開催日時：2018年4月6日(金) 11時10分～12時40分

講師：時任 隼平氏(高等教育推進センター専任講師)

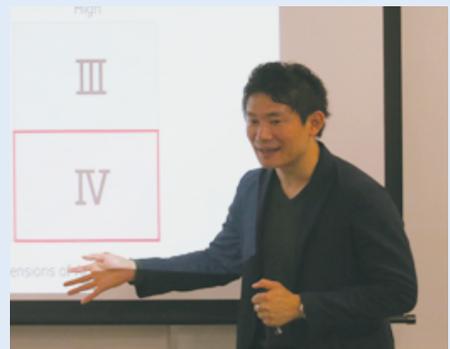
ティーチングアシスタントになる予定もしくは授業について理解を深めたい大学院生と研究員を対象として、研修を開催しました。

研修は大学教育においてティーチングアシスタントが求められる背景や、具体的な役割とは何か等について、参加者同士の議論を中心に進められました。

研修の後半では、学習観の変遷や学習支援の基本的な考え方についてレクチャーを受けた後、自分がティーチングアシスタントを担当する予定の授業の目的や授業方法を分析し、そこでの自己の役割について議論を行い、理解を深めていきました。

研修終了後に実施したアンケートからは、以下の感想がありました。ティーチングアシスタントになる予定の方だけでなく、授業について理解を深めたい方にも今後につながる有益な機会になりました。

- ◎業務内容に関する研修かと思っていたが、想像より教育の本質に迫る内容で勉強になった。
- ◎TAをやる、やらないに関わらずとても為になる研修でした。



◆2017年度のLUNAの利用実績

2017年度の利用実績の集計を行いました(下表)。

LUNAを利用する授業科目の比率は50.6%(前年比 +3.0%)、専任教員の利用率は80.0%(前年比 +3.1%)でした。また、学生の利用率においても学生94.3%(前年比 +0.7%)の結果となりました。

指標項目	指標の定義	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
1 LMSを利用する授業科目の比率	全開講科目数(大学・当該年度)に対するLUNAを利用する科目の比率。(LUNAを利用するとは「お知らせ・教材・掲示板など」に教材や記事が掲載されている科目とする。)	12.2%	34.6%	35.7%	38.7%	40.4%	43.8%	47.6%	50.6%
2 LMSを利用する専任教員の比率	全専任教員に対するLUNAを利用する専任教員の比率。(LUNAを利用する専任教員とは「お知らせ・教材・掲示板など」を利用している科目がひとつでもあることとする。)	53.9%	59.4%	60.9%	69.8%	73.5%	76.2%	76.9%	80.0%
3 LMSを利用する学生の比率	LUNAにアクセスした学部学生数 ÷ 在籍学生数(学部) (1回でもLUNAのページにアクセスしたらカウントする。)	65.8%	85.9%	89.0%	92.0%	92.5%	92.3%	93.6%	94.3%

◆LUNAサポートでは以下のサービスを提供しておりますので、ご利用ください

- ◎電話・メールサポート……………電話やメールにてお問い合わせをいただければ、サポートします
- ◎出張サポート……………研究室に直接訪問し、サポートします。個人、複数のいずれでも対応可能です
- ◎来室サポート……………高等教育推進センター事務室へ来室いただければ、その場でサポートします
- ◎学生向け説明会……………先生に代わってLUNAの操作方法のオリエンテーションをおこないます
- ◎ハンドブック……………教員向け・学生向けを用意しています
- ◎オンラインマニュアル……………LUNA内に詳細なマニュアルを掲載しております



文学部 佐藤 寛 先生のご活用事例

- ・ LUNA を使っている科目・コミュニティ
 - ⇒ 【講義系授業】臨床心理学（心理学的支援法） 【クラス人数】約 200 名
 - ⇒ 【コミュニティ】総合心理科学科 2018 年度
各学年単位でコミュニティを運用 【登録人数】各約 200 名
心理科学研究室教員 【登録人数】約 15 名
- ・ LUNA で使っている機能
 - ⇒ 【講義系授業】コンテンツ、Web レスポンス
 - ⇒ 【コミュニティ】コンテンツ、テスト
- ・ 高等教育推進センター貸し出し教育支援ツールとして、IC カードリーダー

用途に応じてLUNAやICカードリーダーを使い分け利用しています

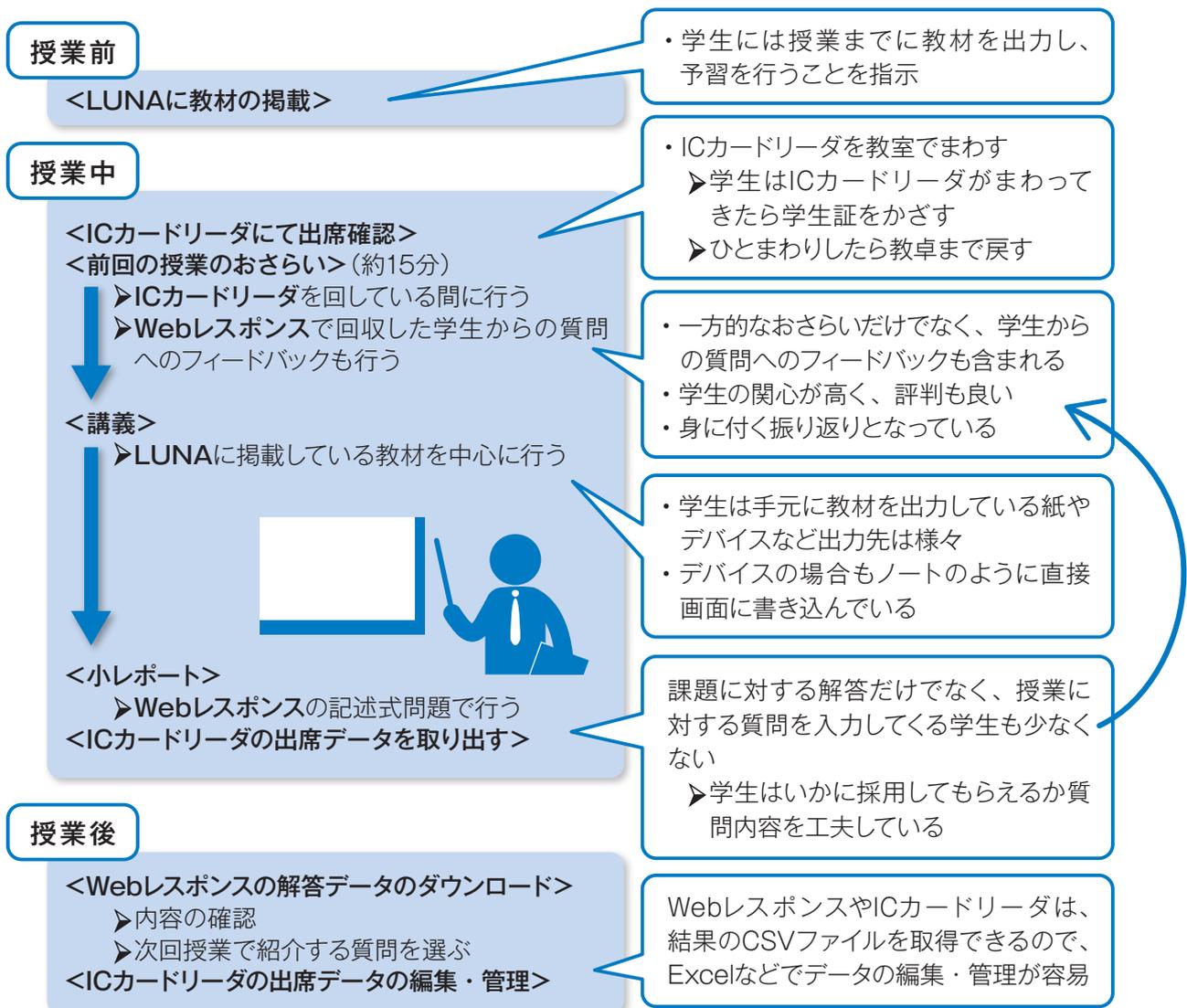
Webレスポンスは毎回の授業の小レポートだけでなく、学生からの書き込みも授業で生かしています

LUNAやICカードリーダーを利用するきっかけ

前任校でICカードリーダーを授業で使用していました。

関学に赴任後、講師控室に掲示されていた高等教育推進センターのポスター（「教育支援ツール」のご案内）を見て、LUNAやWebレスポンス、ICカードリーダーの存在を知り、授業で利用したいと思いました。

授業では、ICカードリーダーで「出席」、LUNAで「教材」の掲載、Webレスポンスで「小レポート」を行っています



LUNAや教育支援ツールを利用する前は

並び替えや印刷など授業準備以外にも膨大な時間を費やしていた

- < 出席確認 > 授業開始時に紙の「出席カード」で出欠をとり、授業後に「出席カード」を学部や学生番号などを基準に手作業で仕分け後、Excelに入力を行い、手間と時間がかかっていた。→ **ICカードリーダを活用**
- < 小レポート > 学部指定のB6の用紙を使っていた。配布も回収も手間がかかり、「出席カード」と同様に手作業での仕分けに大幅に手間と時間を割き、保管も紙のまま。→ **Webレスポンスを活用**
- < 教材配布 > パソコンで作成した教材を大量に印刷していた。→ **LUNAを活用**

LUNAや教育支援ツールを利用することで

- 事務的な労力・時間・紙の大幅な削減を実現
- Webレスポンス経由で学生からの質問を受け付けられるようになった

- < 出席確認 > ICカードリーダに学生証をかざすだけで、出席情報を容易に取得できる
学生番号・読取日時が記録され、CSVデータを取得できるので、すぐにExcelでの編集・管理ができる。
- < 小レポート > 学生がスマホでWebレスポンスにアクセスすれば、すぐに「小レポート」が実施できる
 - ▶ 用紙の配布・回収が発生しない
 - ▶ 「出席確認」と同様、事務作業が大幅に削減
→ 学生からの解答はCSVデータとして取得し、Excelで編集・管理を行う。
 - ▶ SNSネイティブ世代はすぐに順応できると思われる
導入当初 → アクセスできない・手順を間違える等、利用できない学生が1割
授業回数が進むと → 数名に減少
 - ▶ 学生はスマホで手軽に回答できる
→ 課題の解答以外に授業の感想や質問などを入力する学生がいる。
授業の内容からもう一段階踏み込んだものや、ちょっとした裏話が知りたいなど、学びを深めるに当たり有用な質問が多く、授業冒頭の「おさらいの時間」の中で紹介している。
「おさらいの時間」のフィードバックは、学生から好評である。
- < 教材配布 > 授業の数日前にはLUNAに掲載
 - ▶ 教材では紙の全廃が実現
→ 学生はLUNAに掲載されている教材をいつでも閲覧でき、予習・復習につながっている。

【使用して良かった点】

各システムを導入することで教員の労力・時間が大幅に削減されただけでなく、学生の学修意欲に基づいた質問が増え、その質問を授業でフィードバックすることで、「学び」の深度につながっていく。

Webレスポンスはスマホで利用できる所以学生には身近に感じるツールとなっている。昨今、デジタルデバイスを利用する学生が多く、教材が手元のデバイスで利用できるのは、学生の自立的な「学び」の上でも効果的であると感じている。

ご要望・他に利用してみたい機能は？

- 手作業を減らしてほしい
出席データやWebレスポンスのデータを取得した後は、ワンステップでLUNAに連携してほしい。
- LUNAをアプリ化してほしい
Webレスポンスを授業で利用しているので「ブラウザ起動」→「ログイン」といった手順を省きたい。
教員・学生とも、授業で行う操作はアプリで完結し、「成績管理」などじっくりと取り組む必要がある作業はPCで行うなど、用途によってデバイスやアクセス方法を選びたい。
- デジタルトレンドを柔軟に取り入れてほしい
ゼミではビジネス向けチャット「Slack」を利用している。学生がプレゼンをしている間にも「Slack」で活発な議論が繰り広げられている。SNSネイティブ世代では文字のやり取りだけでなく、画像や動画など様々なコンテンツのやり取りをSNS上でいきなり、情報を共有し、学びあっている。一斉に情報が拡散し共有する状況に「学び」として反応するには、ツールにもスピードが求められる。

ここでご紹介させて頂いた機能はLUNAサポートにマニュアルがございますので、ぜひご活用ください

(LUNAサポート→LUNAの使い方(左側のメニュー))



文学部 杉崎 鉦司 先生のご活用事例

- ・ LUNA を使っている科目
 - ⇒ 【講義系授業】 英語学入門 【クラス人数】 約 180 名
 - ⇒ 【講義系授業】 実践英語学特殊講義 【クラス人数】 約 100 名
 - ⇒ 【演習系授業】 人文演習 【クラス人数】 約 30 名
 - ⇒ 【演習系授業】 英語学演習 【クラス人数】 約 15 名
- ・ LUNA で使っている機能
 - ⇒ 【講義系授業】 お知らせ・教材の掲載・授業支援ボックス
 - ⇒ 【演習系授業】 お知らせ・教材の掲載

「授業支援ボックス」は大人数クラスの小さなテストでは欠かせないもの

「授業支援ボックス」を利用するきっかけ

前任校でLMS (Moodle) の利用が推進されており、「授業支援ボックス」も授業で使用していました。赴任時にLUNA講習会に参加し、関学にもLUNA/LMS (Blackboard) があることを知り、ぜひ活用したいと思いました。

以前留学していたアメリカの大学では、「学生が“わからない”のは教員の責任であり、学生の“わからない”を“わかる”ようにするのが教員の仕事である。」という指導を受けました。

学生が“わかっている”のか“わかっていない”のかを判断するために、授業ではできるだけ学生が教員に質問をしやすい雰囲気になるよう心がけています。学生はひとりでは“わからない”ことを教員に質問しにくいようですが、みんなで相談しあって“わからない”ところが共有されると、その点を教員に質問してくれるようになります。“わからない”ところが“わかる”ことによって、授業の楽しさや意義が伝わっていくことを実感しています。

質問しやすい雰囲気づくりの一環として、大人数のクラスでの小テストは、記述式で、かつ学生同士で相談しても良いという形式で実施することを計画していました。「授業支援ボックス」は、採点后に授業時間に縛られることなくLUNAを通じて手書きの答案を電子化して返却できるので、私の小テストのツールとして欠かせないものになっています。

「授業支援ボックス」を使って、緊張感と活気のある授業の実現

▶ 小テストの実施タイミングは授業の中で決定

授業中いつ実施するかはあえて決めず、授業の流れに合わせて実施します。用紙を配付するタイミングも決めていません。問題は小テスト実施時にスライドで提示します。学生は、ちゃんと授業に出席していないとテストが受けられず、内容を理解していないとよい得点が得られない仕組みになっています。

▶ 小テスト中は相談OK！

周りの人と相談しながら、解答を記入します。その相談は教員(杉崎先生)への質問も含まれます。他者と答えを導き出すことで、独りで答えを考えるよりも「考える楽しみや学びを深める」ことを目的としています。小テストの時間は楽しく活気のある時間になっています。

▶ 学生が書いた学生番号の不備で読取エラーになった

答案はすぐには返却しない
当該学生から「LUNAに返却がない」などの申し出があった際は、学生に注意してから答案を手動登録し返却します。

▶ 答案の返却で学生は振り返りができる

「授業支援ボックス」は、自動的に点数集計と答案返却が行え、授業の振り返りに有効です。

緊張感UP
授業中いつ始まるか分からない小テスト

緊張感さらにUP
問題は用紙に書いていない授業にちゃんと出席していないとよい点数が取れない

考える楽しさUP
学びを深める
周りの学生と相談しながら答えを導く

学びを深める
教員が採点しLUNAに登録すると、答案がLUNAに返却される
LUNAで答案が確認でき授業の振り返りができる

満足度UP
自分の評価が確認できる

繰り返すことで
さらに
学びを深める

学生は、小テストを受験するだけでなく、「小テスト」→「授業の振り返り」→「自分の評価の確認」を繰り返すことにより、満足度が上がっています。教員も点数の集計、答案返却が自動化でき、効率的に授業を運営することができます。

授業支援ボックスとは

実施したテストやレポートなどの用紙を電子化し、LUNA に登録するシステムです

※センターとは、ここでは高等教育推進センターを指します

**【使用して良かった点】****●「授業支援ボックス」**

- ・ 手書きの答案を電子化してLUNAに登録できる。
- ・ LUNAの成績管理に点数が自動的に登録されるので、点数計算の効率上がる。
- ・ 登録と同時に採点した答案を学生に返却、学生に得点を開示することで成績の透明化ができ、学生の満足度が上がる。

●「教材」の掲載

ペーパーレスの実現。欠席している学生も教材を確認できる。

●「お知らせ」のEメール配信

連絡事項だけでなくリマインダとしても利用しています。(※1)

【課題】

＜授業支援ボックス＞

- 学生が学生番号を正しく記入する
- 専用紙の印刷の仕上がり次第で読取成功・失敗の判定が左右される
拡大/縮小・ミストコードの濃度・歪み・汚れなどが読取エラーと原因となり、読取失敗につながる。

ご希望・他に利用してみたい機能は？

＜機能＞

- グループで議論をさせたい
▶ 掲示板やグループワーク
- 科目を超えて、共通の教材を使う教員同士の教材置き場がほしい → 教材を簡単に科目にコピーしたい
▶ コミュニティ
- 授業中に学生のスマホで記述式の解答を回収したい
▶ Webレスポンス

＜要望＞

- 使い方の動画をLUNAに掲載してほしい
動画の通りに操作すると出来上がるというマニュアルであれば、初心者にも一目瞭然でわかりやすい。
- 各システムどうしを双方向からアクセスできる仕組みにほしい
シラバスや時間割、LUNA、ポートフォリオなど必要なシステムがそれぞれ独立しつながりがないので、ユーザにはわかりにくい。
時間割からLUNAの科目に、LUNAの科目からシラバスになど、双方向でつながりのある仕組みがあれば、ユーザは直感的に使いやすく、ユーザ数も増えるのでは。必要なシステムはそろっているのにもったいないと感じている。
- LUNAの積極的な広報活動をしてほしいのか

ここでご紹介させて頂いた機能はLUNAサポートにマニュアルがございますので、ぜひご活用ください

LUNAサポート→LUNAの操作方法【教員用】(左側のメニュー)

- ☆授業支援ボックス ▶ 実施したテストやレポートなどの用紙を電子化し、LUNAに登録するシステムです
ご利用の際は、高等教育推進センターにお問い合わせください
- ☆「教材」の掲載 ▶ 教材(授業資料)の掲載、教材(コンテンツ)の作成、音声や動画を掲載する
- ☆「お知らせ」のEメール配信 ▶ 連絡事項の掲載(お知らせ)
- ☆リマインダの送信 ▶ P.22 未提出の学習活動に関するリマインダの送信(※1) LUNA活用ハンドブックより

LUNA 活用事例紹介

大教室での授業において、グループディスカッションに LUNA のグループ機能を活用

非常勤講師（商学部）Curtis Rigsby 先生のご活用事例

- ・LUNAを使っている科目 ⇒ 【講義系】教養基礎（倫理）【クラス規模】約 300 名
- ・LUNAで使っている機能 ⇒ お知らせ、教材、グループ、課題レポート、成績管理

◆グループ登録は、LA（ラーニングアシスタント）が担当します

授業中のグループディスカッションのグループ編成は、学生同士で決定し、メンバ票を提出します。メンバ票をもとにLAがグループ登録をします。→ LAを科目に「科目作成者」として登録することで、グループ登録が可能になります。

科目作成者とは

お知らせの作成、教材の掲載、グループ作成、フォーラム作成が可能です。科目作成者は、成績へのアクセスは禁止されています。

◆学生は、グループごとに、グループディスカッションのテーマをグループ Wiki に書き込みます

学生同士が協力し、対話できるよう、グループツールをすべて利用できるように設定します。グループツールの利用方法については、授業中に LUNA サポート担当がオリエンテーション（15分程度）を行います。※教員は、グループツールの利用状況をいつでも確認することができます。

◆学生は、グループごとに、グループディスカッションの内容をまとめ、グループ課題を提出します

教員がグループ課題を作成すると、成績列が自動的に作成されます。LUNA の成績管理でグループ課題を採点すると、自動的にグループメンバの成績がすべて同じ成績になります。

利用可能なグループツールは

教員が有効にしたツールのみ、学生はアクセスできます。（グループブログ、グループ掲示板、ファイル交換、グループ日誌、グループタスク、グループ Wiki）

【LUNA を活用して良かった点】

- 大教室での授業は、教材の配布やお知らせなど、LUNA なしでは講義運営が難しい。
- LA を科目作成者として科目に登録することで、LUNA の運用の一部を任せられることができる。
- マークシートで行った中間テストの結果を LUNA で公開できる。

<グループ課題 採点画面（サンプル）>

作成したグループごとに成績管理のデータを表示することができます。
→ スマートビューの作成



答案の採点欄に点数を入力すると、その点数はすべてのグループメンバに反映されます。

ペンマークをクリックすると個別に成績を変更することもできます。

FD に関する講演会

FDに関する講演会—2018年度新任教員研修—

開催日時：2018年4月7日（土）9時～15時20分

講師：豊原 法彦氏（高等教育推進センター長）

本学に新たに着任した教員を対象とした、新任教員研修が4月7日に開催されました。

村田治学長より、「関西学院大学の教育目標」についての講演をはじめ、教務機構、研究推進社会連携機構、大学図書館より各制度・業務についての説明があり、午後からは高等教育推進センター主催のLMS (LUNA) 講習会とFDに関する講演会「高等教育を取り巻く状況を踏まえた本学におけるFDの取り組みについて」が開催されました。

FDに関する講演会では、豊原高等教育推進センター長より、アクティブラーニングのための教育支援ツールの紹介や「授業評価」から「学修行動と授業に関する調査」への移行、シラバスの見直しなど、本学の改善に向けた取り組みが紹介されました。

さらに本学では、教員個人のFD活動を推進するだけでなく、提供部署単位でのFD活動や全学的なFD活動を推進していることの紹介があり、参加者に積極的な協力を依頼されました。

講演終了後に実施したアンケートからは、「授業への工夫の重要性がよく理解できた」、「分かりやすく、授業にとり入れたい内容であった」等の感想があり、新任教員の今後のFD活動へとつながる有益な講演会となりました。



FDワークショップ 大学教員のための『講義方法のブラッシュアップ』B

開催日時：2018年9月5日(水)～6日(木)

講師：倉茂 好匡氏 <滋賀県立大学理事兼副学長(教育・学生支援担当)>

このワークショップは、「関西地区FD連絡協議会初任教員向けプログラム」との共催事業として、2011年より「講義方法のブラッシュアップ」Aと隔年で実施されており、専任教員、非常勤講師及び大学で講義担当を目指す後期課程の大学院生等を対象に、1日目のみ、2日間連続参加の選択が可能となっています。

両日とも講義だけでなく、参加者は講師からの課題に対して「個人ワーク」で考え、その内容を「グループワーク」で話し合い発表するなど、アクティブラーニングの手法を用いて学びました。

参加者数は初日が21名(関西学院大学から5名、関西地区FD連絡協議会加盟校等から16名)、2日目が11名(関西学院大学から3名、関西地区FD連絡協議会加盟校等から8名)でした。

なお、当日のプログラムと感想は以下の通りです。

- ◆9月5日(水) 講義「アクティブラーニングの基本」
講義「アクティブラーニング導入の秘訣」
ワークショップ「グループワーク用課題づくり」

- ◆9月6日(木) 講義「ループリックによる評価」
個人ワーク「ループリックを作ってみよう」
グループワーク

- ◎アクティブラーニング、ループリックの具体的な活用方法を学ぶことができた。
- ◎自分の担当する科目に当てはめて考えることで、より具体的に考えることができた。
- ◎グループワークで様々な分野の先生方と議論ができ、学ぶことが多かった。



＝ 第15号発行にあたって ＝

2018年度最初のニュースレターをお届けします。

巻頭特集は、『ティーチングアシスタントのための「学びの支援方法」習得研修』です。ある意味で教員の卵とも言える、ティーチングアシスタント、そして大学院生や研究員の方々へ、教育の実践と理論の理解に繋がる体験を準備するものです。受講生の反応も良く、来年度以降もさらに充実した内容で広がっていきますので、関係各位のご協力をよろしくお願いします。

また今号ではLUNAの具体的な活用事例を豊富に紹介しています。ICカードリーダーや授業支援ボックスなど、これまでセンターで順次導入してきた新しい教育支援ツールをLUNAに活用した事例を中心に取上げています。センターではこれからも様々なツールを紹介していく予定ですので、ご興味のある方はぜひセンターにコンタクトを取っていただければと思います。

今回のニュースレターからささやかながらレイアウトを変更しました。手にとってくださる皆様に、少しでも読みやすく、わかりやすくなるよう、引き続き編集を進めてまいります。後期のニュースレターもぜひご期待ください。

高等教育推進センター副長(高等教育推進センターニュースレター編集長) 江原 昭博

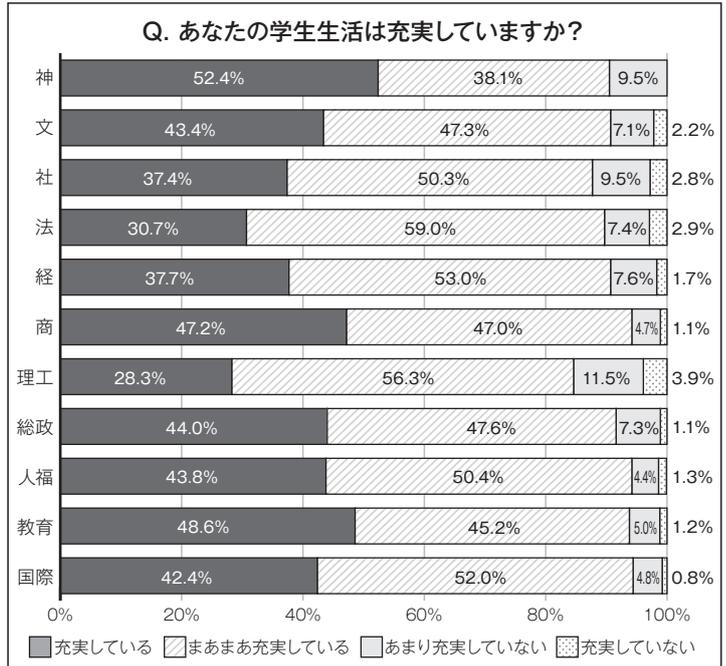
～一年生調査・上級生調査（IR 学生調査）ご協力のお願～

本調査は、学生の皆さんに大学生活を自己評価していただき、教育の成果を測定することを目的に実施します。2010年度に経済学部と商学部の2学部から開始し、2013年度からは全学部が参加しています。現在は全学部の1年生と3年生に悉皆調査で行っており、学部によっては2年生、4年生も実施しています。

調査用紙（マークシート）は、本学が参画する大学IRコンソーシアム（2018年8月31日現在、全国の国公私立54大学が加盟）の共通学生調査に、本学独自の質問を加えて作成しています。記名式で実施することにより、間接評価と、成績情報などの直接評価とを紐づけた分析が可能であり、集計結果は教育の現場である各学部フィードバックして教育改善に取り組んでいただいています。得られたデータは「Kwansei Grand Challenge 2039」における長期戦略の様々な指標としても活用されます。

今年度は11月12日（月）から11月30日（金）に実施を予定しております。趣旨をご理解の上、なにとぞご協力くださいますようよろしくお願いいたします。

◆上級生調査2017年度結果より



学修行動と授業に関する調査

春学期の回収状況と秋学期の調査期間のお知らせ

2018年度春学期のマークシート方式による実施率は98.2%（2017年度春学期99.3%）と、多くの先生方のご協力によりほぼすべての授業で実施されました。

また、LUNAを利用したWebによる調査方式では、Webの対象科目のうち学生からの回答があった科目は74.3%（2017年度春学期83.4%）でした。

本調査の目的は①学生の学修行動・成果の振り返り、②授業担当者による次年度以降の授業内容や授業方法の改善の促進、③授業環境について組織的な改善に結びつけること、の3点です。なお、各学部・センターのFD活動の一例は高等教育推進センターホームページの「FD活動報告」をご覧ください。

秋学期も引き続きご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

◇秋学期の実施スケジュール

<マークシート方式>

2018年12月7日（金）～12月20日（木）[予備期間：12月21日（金）～2019年1月11日（金）]

<Web方式>

2018年12月7日（金）～2019年1月11日（金）

※実施要領・調査対象科目等の詳細につきましては、11月中旬に各授業担当者にご連絡致します。

高等教育推進センターニュースレター
2018年11月1日

発行：関西学院大学高等教育推進センター

TEL：0798-54-7420 FAX：0798-54-7421

〒662-8501 西宮市上ヶ原一番町1-155

<https://www.kwansei.ac.jp/highedu/>

ご意見、ご感想、情報等をお寄せください。寄稿も歓迎致します。✉ HighEdu@kwansei.ac.jp